

藤沢駅北口デッキ・リニューアルの設計

大日本コンサルタント株式会社 原隆士、初鹿明、松井幹雄
株式会社GK設計 ○西元咲子、入江寿彦、加賀美鋭

1. はじめに

駅前デッキの先駆的事例でもある、昭和54年(1979年、築36年)竣工の藤沢駅北口デッキ(4700㎡)のリニューアルに向けた設計業務を報告する。設計者は、藤沢市(事業者)が主催する公募型プロポーザル(一種の設計コンペ)において選定されたもので、以下の要求性能に対して、基本計画(コンペ時提案)から詳細設計までを実施した。(図1参照)

- ① 市の玄関口としてふさわしい装い。太陽や緑を感じることができるデザイン。
- ② 日常時と年に数回のイベント時の両方において、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの実装。
- ③ 耐震補強済みであり、荷重増にならない配慮。

2. デッキの構造的特徴

本デッキの地上部はバスターミナルとして利用され、その動線を避けるように、道路を跨ぐ方向に13.65m、道路方向に8.5mピッチで配置された鋼管橋脚上に、約2.8mのグリッドを基本とするSRC構造の床組みがワッフル状に展開している建築的な構成である。(写真1参照)

リニューアルにあたり、デッキ上に照明支柱等を新たに配置したが、その際にはこのグリッド交点位置に支柱アンカーを配置し、支柱から伝達されるモーメントを効果的に主構造に伝達するような工夫を加えるなど、デッキ上の施設配置デザインと構造特性上の制約とのパズルを解くような設計となった。

3. 既存ビルとのアクセス改善

デッキと既存ビル2階フロアとは2.25mの階差があり、従前は階段及びメイン出入口から離れた場所のスロープでの接続で、車いす利用者はもとより乳母車の利用者にも不便な状況にあった。地上と地階へアクセスするEVはあったが、片方向扉で2階フロアへのアクセスは出来ない状況であった。

そこで、EVを双方向扉型に更新し、それに必要なビル及びデッキ構造の変更を工夫し2階フロアへのアク

セスを実現した。加えて、空間レイアウトを工夫しスロープも新設した。

4. エレベータ、エスカレータの新設

バスターミナルへ接続するEVを1基新設。代替動線が確保できる既存階段2基を廃止し、その場所にEVおよびエスカレータを新設し、全体としてのユニバーサル化を実現した。

これらの改善に伴う改築設計にあたっては、既存構造物の輻輳する制約のクリア、様々な荷重軽減策の適用など、構造上の工夫を随所に盛り込んで実現した。また、エレベータかご寸法の設定は、ストレッチャーの使用を前提に調整し、救急体制面の向上にも配慮した。

5. 軽量化の工夫(高欄、床構造)

高欄はコンクリート製の壁高欄を全てガラス高欄に



写真1 グリッド状のデッキ構造(リニューアル後)

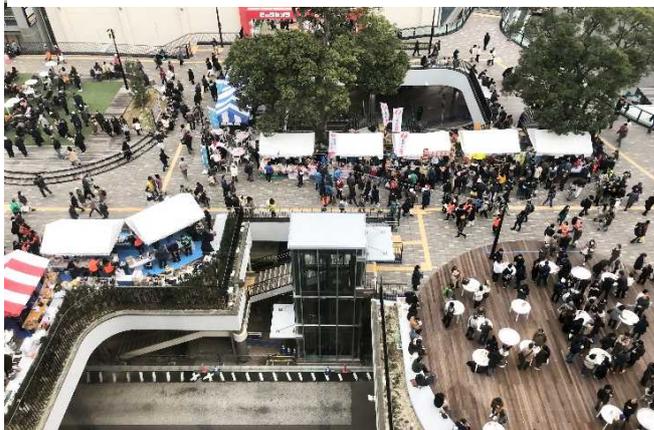


写真2 イベント時の様子(リニューアル後)

Keyword : リニューアル、歩道橋、ペDESTリアンデッキ、ユニバーサルデザイン、バリアフリー
連絡先 : 〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町300番地 TEL03-5298-2056

更新して軽量化、装いを新たにした。

従前のタイル舗装は、その路面高さの調整のための均しコンクリートが厚いところで 0.2m ほど使用されていたため、排水勾配を残してこれを剥ぎ、浮き床式のタイル舗装と木製デッキに更新し、軽量化を行うとともに、排水施設の床下化に伴う歩行性向上を図った。

6. 回遊動線確保のための増床（木陰の演出）

軽量化の一方、デッキ上の回遊性や魅力を向上させるための増床も実施している。従前から床版を有しないグリッドから樹冠を大きくデッキ上に張り出していたクスノキの周りに歩廊を追加した部分である。これにより、樹冠が落とす木陰に人がたたずむ場所が生まれた。近くにベンチも配されており、公園のような柔らかい雰囲気を醸すこととなった。

7. 座る場所の増設（ベンチ延長 140m）

従前もベンチがたくさん設置されていたが、維持管理に苦勞していた。そこで、材質を維持管理が容易な石材に変え、その量も倍増させて、総延長約 140m（200 人強）のベンチ空間を設えた。イベント時は立食用テーブルも多数用意されるが、デッキの至る所で座って談笑できるようにした。

8. イベント時への対応（副動線確保、設備配置）

従前から設定されていたメイン動線に並行して副動線を確保して、イベント時の人の流れを複線化した。

また、飲食等ブースの使いやすさを向上すべく、要所に電源、給排水設備、パラソル設置基礎を配置するなど、デッキの多様な使い方を想定した計画とした。また、都市的な健康活動にも使えるように、従前、藤棚があった空間を開放的な人工芝広場に更新した。（藤棚はデッキに内の落ち着ける別空間に移設。）

9. 照明デザイン（安心と洗練）

従前は、ハイマスト照明が床面に既存樹木の影を作り、洗練と安心感到に少し欠ける状況であった。リニューアルにあたり、街の賑わいを演出するバナーポールを兼用するポール照明と高欄およびベンチに埋め込んだ照明による洗練された空間演出を実現すべく、輝度を制御しつつ必要な路面照度を確保する計画とした。また、桁下のバスターミナルを覆う部分は全グリッドに演出照明を配置し、従前の暗い桁下のイメージを刷新した。（写真 1 参照）

10. おわりに

2019 年 12 月 21 日に完成式典が行われ、早速、広場的デッキ空間は多くの市民交流に利用され始めた。（写真 2 参照）広場等の利用に関してエリアマネジメントの活動も始まると聞いており、人々の暮らしに直結する、事業に関わられた喜びを感じている。

この場を借りて、藤沢市をはじめ関係者の皆様に感謝します。

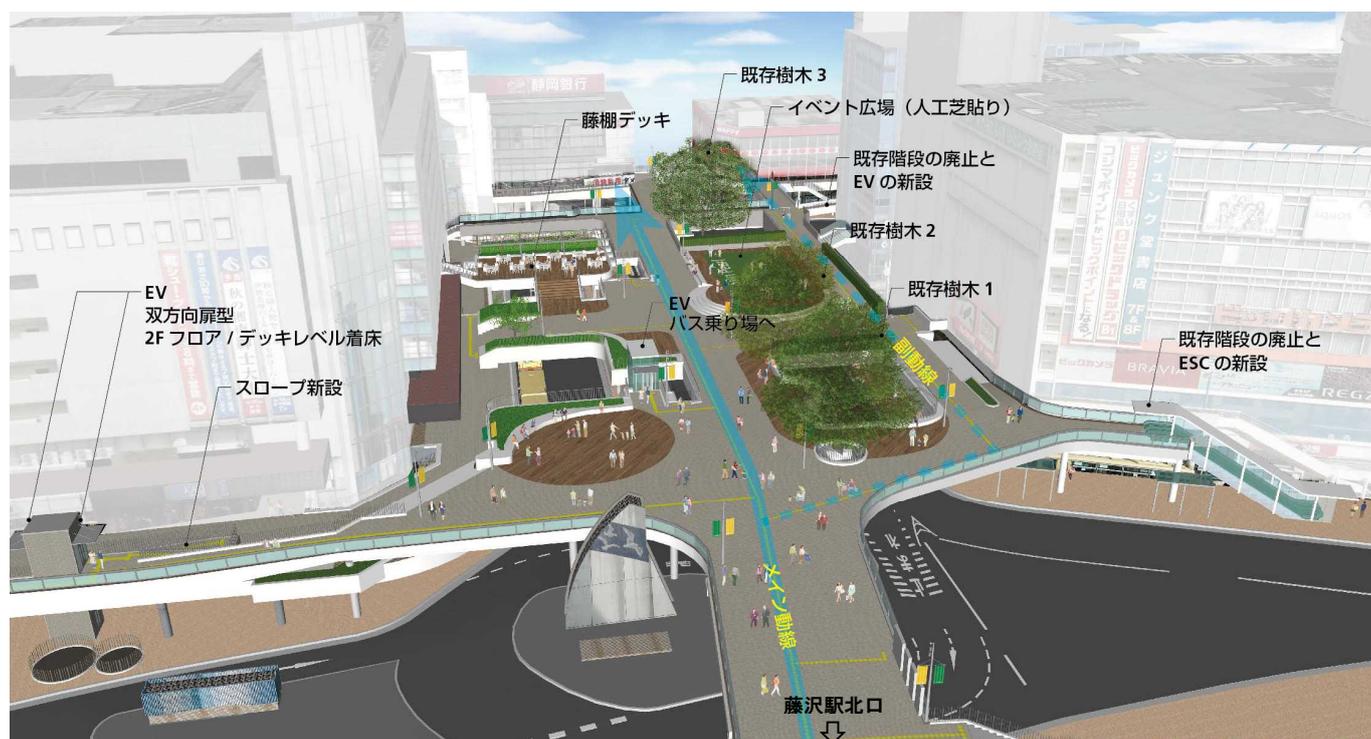


図1 主なりリニューアル箇所(完成イメージパース)